

タイ便り No.3

バンコクも冬となり、すっかり寒くなってきました。とはタイ人にとっての話で、私にとっては依然として暑い日が続きます。日本ほど大きく気温は下がりませんが、夏場に比べると涼しくなったのを感じます。と思ったのも束の間、これから雨期に入る6月に向かって、段々と気温が上がるとのことです。トホホ。

赴任して半年もすると、さすがにバンコク近郊の観光地は全て行ったかと思いきや、私の勝手なイメージかもしれませんが「バンコク＝水路」となり、水上マーケットが沢山あるイメージがあります。水上マーケットへ行っていました。というのも不思議なことに観光客向けの絵はがきでも水上マーケットの写真はあるのですが、日本で売っている有名なガイドブックに案内が出ていなかったりします。水上マーケットが多いのは僕だけの勝手なイメージでしょうか？



郊外の水上マーケット

1. 「研修旅行」が、「研修」に変わった

事務所全体が年末年始休暇に向かいつつある12月初旬、バンコクを離れて車で2時間ほど。カンチャナブリーにて事務所の研修に参加してきました。事前に配られていた計画書では少しながらもリバーラフティングの様なアクティビティーも含まれていたので大いに期待をしていました。しかし、蓋を開けてみればみっちり研修です。遊びは寝る前の一時だけでした。



自己分析結果の分布を確認

KJ法でみんなの意見を出し合うと、あれよあれよと意見が沢山出てきます。どれもみんな事務所運営を良くしようと一所懸命なのが伝わってきます。これらの意見が意見だけに終わらず、確実に実施されればいいのですがその結果が判るのは当分先でしょう。事務所内の国籍は半数がタイ人の現地採用者ですが、残りの半分に関しては日本人の4人を筆頭にネパール、インド、インドネシア、オーストラリア、・・・と多岐に渡っています。生まれが違えば育ちも色々なところ。そして共通言語は英語のみ。みなが母国語でない言語でコミュニケーションを取っているのです、100%気持ちを伝え合うのは難しい気がします。



集合写真を撮っておしまい

研修の中でも一番驚きがあったのが“自己分析”です。自分自身の分析結果も興味深かったですが、その自己分析をタイプ別にボードへ各自が名前を貼っていくと、事務所スタッフにどんな人が多く、どんな人が少ないのかよく判ってきます。ITを担当している同僚とでも、タイプが全く異なっていたのも以外でした。でもタイプが違うって事は、お互いに補え合えるということ？前向きに捕らえましょう。

2. 経済の発展と感動の頻度は反比例する？

私の任地はタイの首都バンコク、物事が割とシステムチックに進みます。銀行での口座開設、携帯電話使用料支払いはカード決済、自宅での Internet 接続、鉄道のプリペイドカード、…。そして街中に物は溢れ、スーパーへ行けば日本で見掛けたような大概の商品はいつも並んでいます。セブンイレブンはいつもで開いています。つまり、割と日本と同じ様な感覚で暮らすことが出来るわけです。



バンコク街中の交差点



ブータン最大のバスターミナル

さて、それが私のこれまでの任地ブータン、ウガンダ、エリトリアではどうでしょうか？銀行にてお金をおろすには口座開設した所へ行かねばなりません。スーパーに欲しい物が並んでいれば、今必要な量よりも沢山買っておきます。だって次にいつ入荷するか判らないからです。そもそもスーパーなんてその辺の商店と品揃えに大差はありません。日常的な食料は地元のマーケットにて量り売りで買います。

タイの都心部を見る限りは発展途上国を抜け出しているのを感じます。こういった所では多くのシステム（銀行、電気、水道等々）がある程度きちんと機能しているので、これらシステムに信用というか、期待を持てるようになります。一方、ブータン、ウガンダ、エリトリアでは、システムチックに動いている物がほとんど無いので、社会システム、インフラ等に対して多くの期待は出来ません。日本ではごく当然なのですが、蛇口を開けば水が出て、スイッチを入れれば電気がつく。こういった小さな事の一つ一つが常々小さな感動になっています。商店へ物を買に行ったとき、目的の物が簡単に見付かっただけでもそれなりの喜び（感動）があります。一方、日本を含めてですが、目的の商品が売っていないだけでガッカリします。電車がちょっと遅れればガッカリします。それ以外の事でも、実は大したことで無いのにガッカリします。

先進国での日常生活の多くは、日々の生活を営むことに大きな体力（エネルギー）をあまり必要としませんが、日々感動は少なく何か感動することが少なくなっています。しかし途上国での日常は、日々の生活を営むだけでもエネルギーが必要でしんどいのですが、日々が小さな感動・喜びに溢れています。自分の存在を日々肌身に感じ、生きている実感がするのです。先進国と途上国、一概には言えませんが果たしてどちらが幸せなのでしょう。実は途上国にも皆さんが想像する以上に幸せは溢れているのかもしれない。

国連人口基金アジア・太平洋地域事務所
情報ネットワークオフィサー
瀬畑陽介